事業者向け　**児童発達支援　自己評価表**

職員計8名在籍

公表　**令和　4年2月14日**

事業所名　ここ　ぷらす出仲間

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		十分なスペースがあり、安心して過ごせる空間を工夫している。	
	②	職員の配置数は適切である	8		配置基準と加配体制を満たしている。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所への設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	1	階段があるが、階段を昇降することで階段を安全に使用するための必要なスキルを身に付ける練習になっている。	
	④	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子どもの活動に合わせた空間となっている。	8		・活動によって構造化している。 ・掃除を毎朝行い、清潔を保持している。 ・定期的に感染防止として、消毒等を行っている。 ・窓を常時開け換気を行っている。	
業務	⑤	業務改善を進めるための、ＰＤＣＡサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	2		その都度、職員間で話し合いをしている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		保護者向けにアンケートを行っている。	

改善	⑦	事業所向け自己評価表および、保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公開している	6	2	評価表を集計したものをホームページに公開している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3	定期的に外部講師や他事業所職員にご意見を頂く事はあるが、第三者評価は行っていない。	第三者評価の実施も今後行っていけるよう体制を整えていく。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		月に1度、職員会議の場で研修を計画的に行っており、内部研修の実施や外部研修への参加を積極的にしている。	

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、児童発達支援計画を作成している	8		見学時や契約時のアセスメントやニーズ表、発達検査の結果等から、計画を作成している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	6	2	アセスメントツールを使用しているが、視機能や言語面においてもより充実したアセスメントが行える様なツー	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されている。	7	1		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		個別支援計画に沿った内容の活動を立案している。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		活動プログラムは児童発達支援4事業所で立案、検討を行っている。 より良い活動内容になるように意見を出し合っている。	
	⑮	活動プログラムを固定化しないよう工夫している	8		児童発達支援4事業所で毎月、活動計画を立てている。専任指導員が工夫したプログラムを立案している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	8		保護者のニーズや本人の発達段階に合わせて、計画を作成している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		朝礼を必ず実施し、その日の療育内容、役割を確認している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	8		終礼時にその日に気づいた事や反省点などを共有したり意見交換を行い統一した支援を行えるようにしている。	申し送りノートの活用等で、書面にも残し確実に共有を行っていく。
	⑲	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		毎日記録に残している。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	8		モニタリングの時期に合わせて、振り返りを行い、必要に応じて計画の見直しを行っている。	

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		基本的には管理者が参加している。状況に合わせて、現場の指導員も参加する様にしている。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8		区役所や相談支援事業所、ご利用の園等とは情報共有を行う事が出来ている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連絡体制を整えている。			医療的ケアの必要な児童の受け入れは、現在行っていない。	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関などと連絡体制を整えている			医療的ケアの必要な児童の受け入れは、現在行っていない。	
	㉕	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		情報提供書の提出等、移行支援を行っている。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		情報提供書の提出等、移行支援を行っている。	
	㉗	他の児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8			
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障がいのない子どもと活動する機会がある		8	園に通われている利用者は交流の機会があります。公園に行った際	公園への外出等の際には、交流の機会はある。他児のと関わりの様子等も保護者の皆様にお伝えしていく。
	㉙	（地域自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		8	ネットワーク会議が開催される時には、積極的に参加をしている。	
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		送迎の際や連絡帳で情報交換を行っている。	
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	6	2	面談時には、相談に対する助言を行っている。	プログラム化された家族支援は行っていない。定期的な面談に加え、家族支援プログラムによるサポートも検討していく。

保護者への説明責任等	㉜	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1		
	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び、支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	1		
	㉞	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		連絡帳や送迎時に相談を受けた際、職員で共有し面談を行い、必要に応じて助言を行っている。面談時以外にも、ご相談は随時伺い対応させて頂いてい	
	㉟	父母会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		8	保護者の方々と交流の場が設けられていない。	
	㊱	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		相談や申し入れがあった際には迅速に対応し、事業所内で共有しながら、対応方法の検討をしている。	
	㊲	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	2	半年に１回、振り返りのプリントを作成し、保護者や相談支援事業所へ配布をしている。	
	㊳	個人情報に十分注意している	○		外部へ情報の流出がない様、留意している。	
	㊴	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		視覚的に示す等、相手に伝わりやすい様配慮している。	
	㊵	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	7	地域交流できるイベントを現在は実施できていない。	地域から選ばれる事業所となる様、地域との関わり方も検討していく。
非常時の対応	㊶	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	1	マニュアルはあるが、詳しい内容を保護者の方にお伝えする事は出来ていない。	マニュアルの内容や対応方法についても、具体的に契約時等にお伝えしていく。
	㊷	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出そのほか必要な訓練を行っている	8		年に2回、訓練を実施している。	訓練を行った際は、保護者に実施したことが分かるようにしていく。
	㊸	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	1	事前に服薬や健康面に関するアセスメントを行っている。	
	㊹	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1		
	㊺	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		全事業所(9事業所）でヒヤリハットや事故報告を共有し、再発防止に努めている。	
	㊻	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1	定期的に研修を実施している。	

㊼	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得たうえで、児童発達支援計画に記載している	7	1		